

令和5年度 在宅におけるチーム医療を担う人材育成研修 (緑区ACP人材育成研修) 報告書

開催日時・場所・参加人数

令和5年10月19日(木) 18:30~20:30 緑区役所4AB会議室 参加者 58人(集合型 37人、オンライン型 21人)

研修概要

医療・介護の専門職が、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)※について基本的な知識や考えを正しく理解し、普段の業務の中でACPについて市民に伝えられることを目的に「ACPの理解」をテーマに研修を開催しました。

※〈アドバンス・ケア・プランニングとは〉

自らが望む人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考え、家族等の信頼のおける人や、医療・介護に関わる方々と繰り返し話し合い共有するプロセスを「アドバンス・ケア・プランニング(ACP)」(愛称:人生会議)と呼びます。(厚生労働省 HP 自らが望む人生の最終段階における医療・ケア)

講義内容

- ① 第一部 ACPの理解について あおいクリニック 院長 浅井 拓雄氏
ACPの現状と課題



- ② 第二部 もしバナゲーム もしバナマイスター 小谷 洋子氏
実際にもしバナゲームを行い、ACPの理解を深める



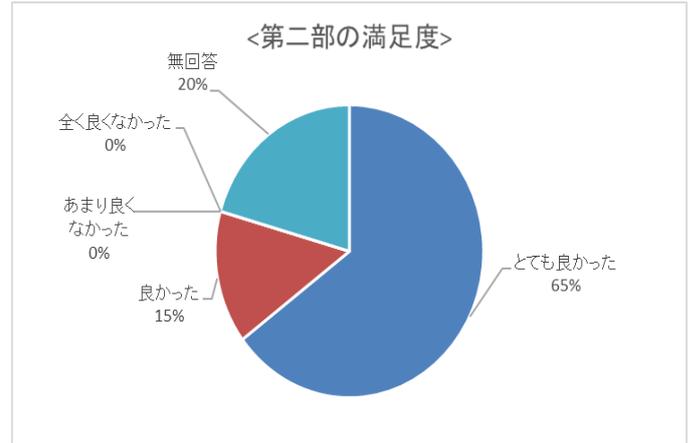
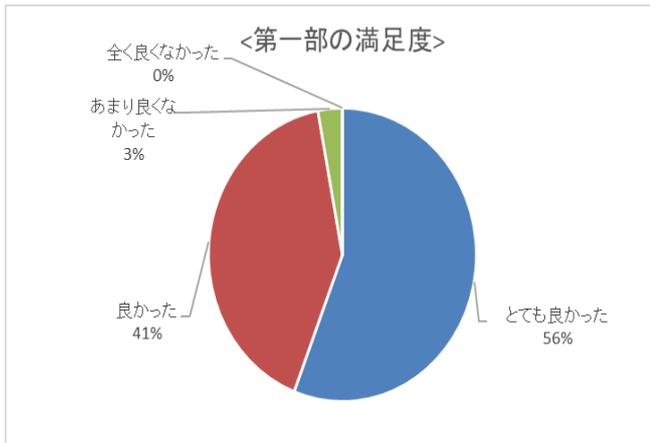
もしバナゲーム紹介

もしバナゲームとは、一般社団法人iACP(亀田総合病院の先生たちが設立)が、アメリカのカードを日本版として作成しました。当日は4人用ルール(ヨシダルール)を採用。各人に配られる5枚のカードの取捨選択を通して、自分自身が大切にしていることに優先順位を付け、その思考のプロセスを言語化し、それをグループで共有しました。

もしバナゲームを通して自己の内面を見つめながら、他者の価値観に触れることで、一人では得られない新たな気づきを得ることができました。

「多様な価値観を尊重すること」や「人の気持ちは変わること」など、ACPを行う上で大切な視点について理解を深めました。

アンケート結果（回答数34人）



◆今日の研修を通じて特に印象に残ったことや発見したことはなんですか。（自由記載 一部抜粋）

- ・ACPは目的ではなく、手段であること。
- ・日本におけるACPの現状、今後の問題点が分かり良かった。
- ・ACPの大切さ、コミュニケーションスキルを学び、現場に臨んでいきたいと思った。
- ・ACPについて切り出すタイミングの難しさを日々感じている。
- ・ACPのとらえ所のなさが理解できた。実践でどのように活用できるか考えていなくてはと感じた。
- ・ACPの内容について、紙面上だけでなく、関係者間で共有しておくことが大切だと感じた。
- ・もしバナゲームを初めて行い、それを通じてACPも学べた。
- ・もしバナゲームでは、人の価値観と自分の価値観は全く違うことが改めて分かった。
- ・人の価値観は思った以上に多様で、各々の価値観が尊重されるべきものであると感じた。
- ・もしバナゲームを通じて、人に自分の価値観を押し付けてはいないか振り返る時間になった。

参加者の職種別内訳

医師（2名）、歯科医師（4名）、薬剤師（2名）、看護師（11名）、ケアマネジャー（14名）
訪問介護事業者（5名）、通所介護事業者（1名）、福祉用具相談員（1名）
包括支援センター職員（8名）、行政職員（6名）、その他（4名） 計 58名



緑区内の様々な職種が顔を合わせ、ACP という共通テーマで学びを深める研修となりました。 沢山のご参加、ありがとうございました。